“富山県高岡市南部にたたずむ魅惑のまち”

戸出によっといで

vol.2
古代～近代
戸出の謎を
解きつくせ

市野瀬～狼～伊勢領にあった

「東大寺荘園・杵名蛭村」

富山県内最大規模の近代化産業遺産「戸出物産」跡地の解析

繊維産業のまち・戸出町の近代化を牽引した2大企業

高岡銅器のふるさと・西部金屋
西部金屋に残った鋳物師と
高岡へ移った鋳物師の差とは？

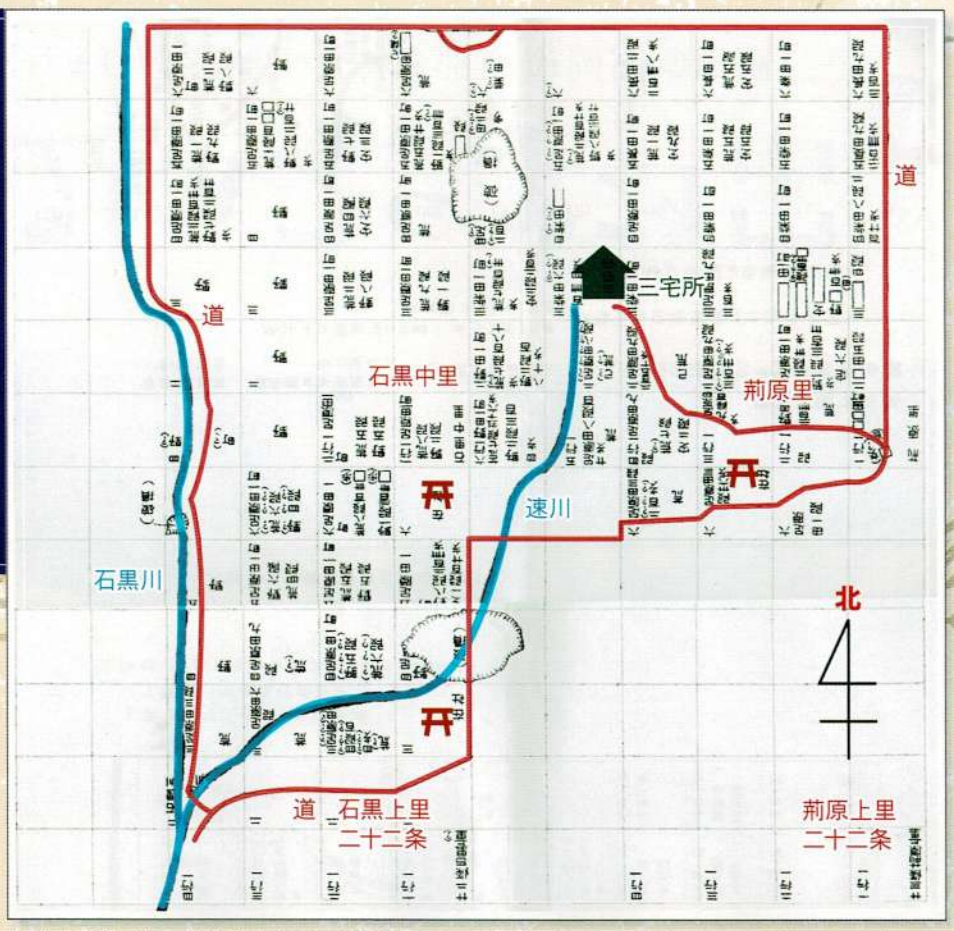
「戸出の高野槇」と「物産神社」
ご祭神が同じ理由とは？

「戸出によっといで」の活動 ほか

戸出の謎解き① 弥生から奈良時代にかけての戸出

奈良時代には荘園。また古来より多くの神社が祀られていたこの土地の人々は、それらとどのように向き合い、共に過してきたのでしょうか？

杵名蛭村墾田地図（767年）



「杵名蛭村墾田地図」神護景雲元年（767年）（続日本記研究五巻二号別冊より）荘園地図の欄外には東：杵名蛭川、西：石黒川、南：南反部百済治田、北：百姓口分田と書かれている。

弥生・古墳時代よりの神社

市野瀬諏訪社は祠の無い神社で、昭和21年に市野瀬天満宮へ合祀されました。「お諏訪沢」と呼ばれる湧水、杉、自然石がありました。杉の切り株と石は今も天満宮に祀られているそうです。

水の神としてここで祀られていたタケミナカタは大国主の子とされ、北陸を治めていました。ヤマト勢力が大国主（山陰・北陸勢力）に対して「国譲り」を迫った際、これに逆い、信州・諏訪湖周辺に追い詰められた人物です。

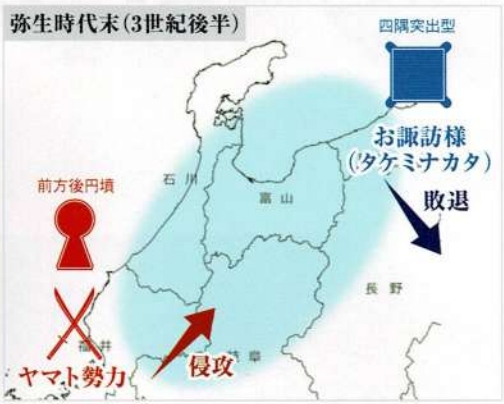
諏訪信仰は平安、鎌倉時代に狩猟、豊作、武の神として全国に広まりましたが、元々は北陸から信州にかけて存在していたようです。祠のない原始的なこの場所の諏訪社は、弥生時代ここがタケミナカタの領土だったことを物語っているのかもしれません。

同様のお諏訪様信仰があった、中之宮、古戸出に人が住み始めたのも、この地にヤマト勢力が本格進出してくる古墳時代以前なのでしょうか。

五社之祠は木の神「クグノチ」、土の神「ハニヤマヒメ」、水の神「ミズハノメ」、火の神「カグツチ」、金の神「カナヤマヒコ」を祀る陰陽五行信仰の神社です。陰陽五行といえば前方後円墳であり、「国譲り」以降の古墳時代、この地へやってきたヤマト勢力の人たちによって建てられた神社でしょう。

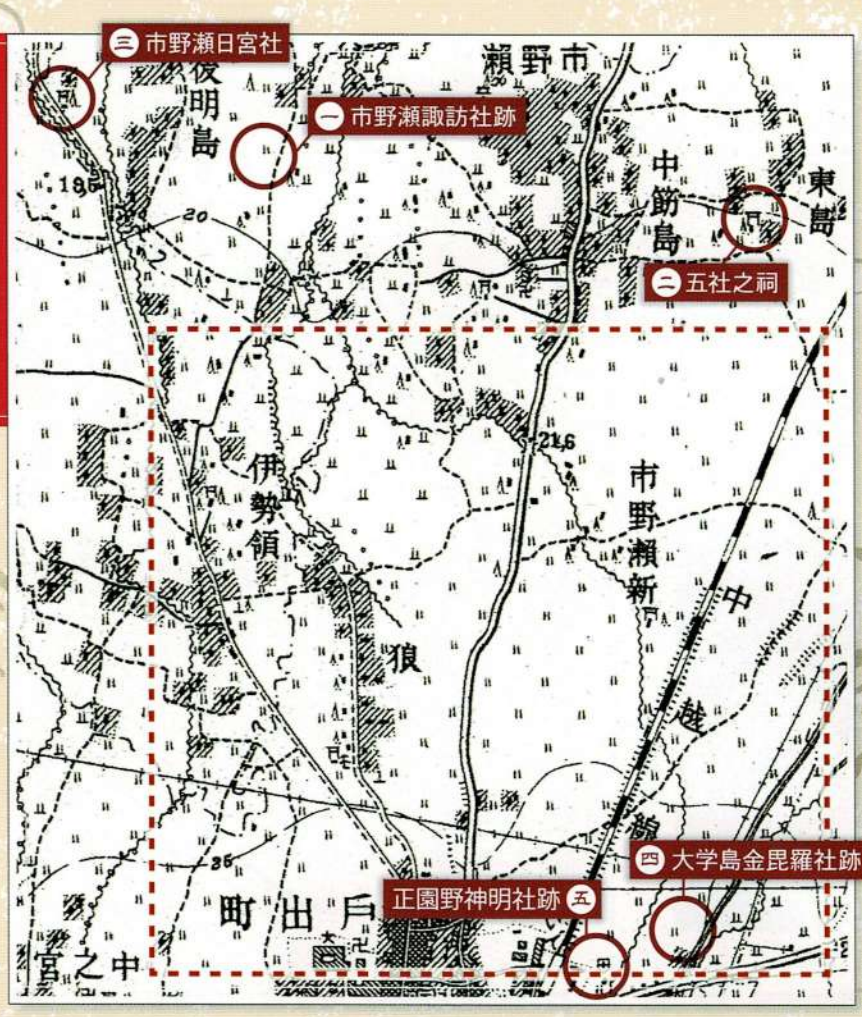
㈡ 五社之祠

㈠ 市野瀬諏訪社跡
（戸出市野瀬83番地）



お諏訪勢力の墓は四隅が突出した形。ヤマト勢力の墓は前方後円墳。

杵名蛭村比定図



杵名蛭村比定図
（昭和5年測量、国土地理院発行 2万5千分の1地図〔戸出〕）
破線は金田先生が比定された範囲（金田章裕京都大学名誉教授「日本古代荘園」より）

現在の狼集落の北の曲がり具合が、石黒川の流れと一致している。石黒川は人工的に作られた灌漑用水なのか。金田先生の比定によれば、川は現在の伊勢領・狼ー市野瀬間にある崖の高台側を、崖に沿って流れているようだ。

キーワード
KEY WORD
SYOEN
KINABIRUMURA

荘園【しょうえん】

それ以前は土地は全て朝廷のものとされていましたが、743年に『私有地を認める法律』が作られ、お金を持っていた寺院、神社、貴族らは農民を雇って新しく土地を開墾したり、貧しい農民から田んぼを買い上げたりして大農園を経営していきました。これが荘園です。

杵名蛭村【きなびるむら】

国家事業である東大寺の大仏を建立し、運営していくために定められた東大寺の荘園のひとつです。
杵名蛭荘園の杵名蛭とは、現在の千保川（舟戸口用水）のあたりを流れていた川の名前です。

近年まで、杵名蛭荘の場所は特定されていませんでしたが、東大寺荘園研究の第一人者である金田章裕京都大学名誉教授によって、それが戸出に存在していたことがわかりました。

杵名蛭荘園の位置は、①他の3つの荘園より約2km程度西側、②葦原が多い扇状地の湧水地帯、③砺波郡と射水郡の境界に近い場所、という3つの条件から、戸出市野瀬を中心とした場所に比定されました。

大伴家持も国司として越中に赴任していた奈良時代、当時の政府は一大事業として東大寺建立・大仏造立を行いました。その事業費を捻出するため、北陸地方では東大寺からの使者と国司とが一緒に各地をまわり、地域有力者から土地の寄進を受けたり、または用地買収、土地交換などによって東大寺の荘園が作られていきました。私たちの住む砺波郡には、石粟、伊加流伎、井山、杵名蛭の4つの東大寺荘園が作られました。

杵名蛭荘園は天平神護3年（767）より前に、東大寺へ献上または寄進されました。それ以前も未開の地だった訳ではなく、地元豪族による荘園経営がされていたようです。この荘園の北には百姓自身が自ら管理する田んぼの「口分田」があり、神社も複数存在していることから、既にこのあたりは成熟した農村だったようです。また「杵名蛭」というのは荘園の東側に流れていた川の名前でした。現在の舟戸口用水（千保川）の流れが当時、杵名蛭川と呼ばれていたようです。

大伴家持はここでも歌を詠んだのでしょうか。奈良へ大仏を見に行くときには「東大寺と戸出には深い関わりがある」ということを知っていると、親近感が湧いてくるでしょう。

杵名蛭周辺に残る神社

三 市野瀬日宮社（いちのせひのみやしゃ）『日本人』になる私たち

神社の名前や祭神から時代や背景が推測できることがあります。「日宮」という神社は北陸特有で、特に富山県に多い神社です。祭神のほとんどは天照大神（アマテラスオオカミ）です。

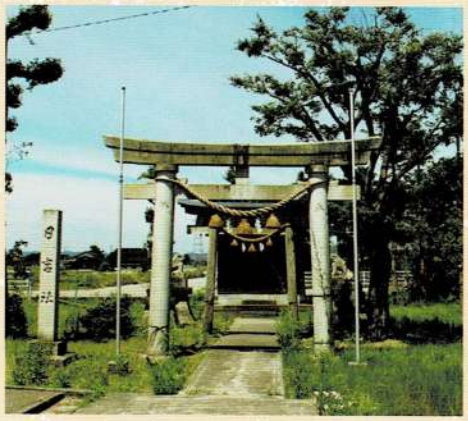
福井県にある日宮（日野宮神社）は554年、欽明天皇（539-571）の第三皇子・臘嘴鳥皇子（あとりのみこ）によって建立されたと伝られています。

天皇家の祖先は天照大神、つまり太陽だとされています。皇族は太陽神の子孫ということで、男性はヒコ（日の子）、女性はヒメ（日の女）と呼ばれました。卑弥呼（ひみこ）も「日の御子」という意味です。「日」の子孫が治める国なので私たちの国は日本なのです。「日宮」という名前の神社は、人々に天皇家を崇めさせるために北陸へ派遣された臘嘴鳥皇子が建てたものではないでしょうか。

神話「大国主の国譲り」では、山陰の人々は戦わずにヤマト朝廷の傘下へと加わり、北陸を統治していたタケミナカタは戦いに破れて信州へと追われます。これは3世紀後半のことです。これを境に、山陰・北陸文化だった四隅突出型墳丘墓は見られなくなり、代わってヤマト文化の前方後円墳や前方後方墳が見られるようになります。

しかし、6世紀になっても依然、北陸各地の村人たちは産土神としてお諏訪様（タケミナカタ）を祀り、信仰していました。臘嘴鳥皇子は、このままでは良くないと思ったのでしょう。そして、地域で最も小高いこの場所を選び、日宮社を建立したのでしょう。

皇子の努力の甲斐あって、人々の信仰は徐々に水の神（お諏訪様）から日の神（アマテラス・天皇）へと移行していったのでしょう。普段は何気なくそばの県道252号線を通り過ぎるだけのこの神社は、私たちが「日本人」になっていく過程を表しているのかもしれません。



四 大学島金毘羅社（だいがくじまこんぴらしゃ）中世の戸出にも大学があったの!?

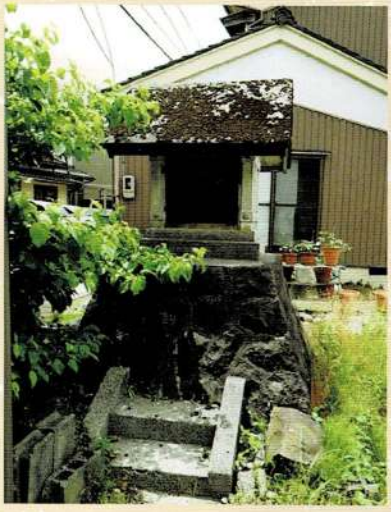
「大学」とは大宝律令で定められた、中下級貴族の子どもを政府の役人として育てるための学校です。757年、公廨田（くがいでん）（のちの勧学田）とよばれる田が全国各地に設定され、子どもたちの教育費や給食として使われました。この地で収穫されたお米も大学のために使われたのでしょう。

大学島金毘羅社は、元は戸出駅の北東（3330番地）にありましたが、現在は戸出公園内に移されています。「川原の宮」とも呼ばれ、舟の安全祈願のため十村・川合家が建てたとも、豪商・竹村屋が建てたとも言われています。

ですが、祀られているのは鉱山の神様「金山彦命」です。文政8年（1825）以降、戸出町で鋳造を行った西部金屋鋳物師・林太郎右衛門らが建てた可能性も考えられるのではないでしょうか。

杵名蛭村墾田地図によれば、荘園の南には南反部百済の治田があったようです。さらに今後の研究調査を待ちたいと思います。

五 正園野神明社（しょうえんのしんめいしゃ）正園＝杵名蛭荘園か？



もとは戸出駅のすぐ東側（2716番地）にあったという正園野神明社。現在、祠は上使街道沿いの場所に移されています。

このあたりは「正園野」と呼ばれ、昔ここには荘園があったと伝えられてきました。杵名蛭荘園があったから「正園野」と呼ばれたのでしょうか。

遠方からの参拝者も多かったこの神社は「川上の風の宮」と呼ばれていました。杵名蛭の「川上」という意味だったのでしょうか。

杵名蛭村場所特定のカギ

伊勢領 市野瀬間の崖の名残

伊勢領ー市野瀬間の崖の名残

上の写真は、伊勢領－市野瀬間にある崖の名残りです。ここには昭和30－40年頃まで3m程度の大きな崖があったそうです。この崖は狼～北町－秋葉町へと繋がっており、杵名蛭荘地図に書かれた石黒川の流れと合致します。

北町ー秋葉町間。崖の痕跡

戸出狼

狼集落は崖の高台側に沿って成立

福井県にある日宮(日野宮神社)は「王神(おおかみ)様」「狼神社」とも呼ばれています。臘嘴鳥皇子は伊勢国で狼を退治した勇猛さを欽明天皇に買われ、家畜を守るために諸国で狼を退治するよう命令を受け、福井でも狼を退治したとされています。

日宮社がある市野瀬のお隣にある狼集落でも「『狼』とは『大神』の意味である」と伝えられてきました。臘嘴鳥皇子はこの地でも狼を退治したのでしょうか。

遺跡・出土品マップ

遺跡、出土品マップ。低地側では出土品がみつかっていない。
「高岡市埋蔵文化財分布調査概報IX ― 平成9年度・戸出地区東部の遺跡分布調査 ―」(1998年3月高岡市教育委員会)」

右は遺跡、出土品マップです。醍醐、是戸一帯から広く出土しており、広範囲にわたって人が住んでいたと考えられます。鎌倉～室町時代、荒又川が庄川の本流であった時代には洪水も多かったことでしょう。

距離的にみて、伊勢領北遺跡と市野瀬日宮社は同じ集落だったのでしょう。戸出で最も古い、弥生・古墳時代の出土品があるのもこのあたりです。しかし、杵名蛭荘園図が示すように、水が得やすい、より低地側のほうが人の定住は早かったのではないでしょうか。

低地側は堆積物が多いため、土器などが出土していないものと思われます。

国土地理院 治水地形分類図

国土地理院 治水地形分類図

城端線の東側に沿って流れるのは、江戸時代までの庄川の本流「千保川」の川跡です。最初に戸出に定住した弥生人たちは、稲作の行いやすい低湿地に居を構えていたのでしょう。

是戸の西、醍醐の中央に見える川跡は、室町時代までの庄川の本流「荒又川」です。

戸出の謎解き②

高岡銅器の鋳物師7人は戸出西部金屋から移った

なぜ西部金屋で鋳物業が盛んになったのでしょう。そして江戸時代の初め、前田利長公の求めに応じて高岡へ移った鋳物師たちと、西部金屋に残った鋳物師たちにはどのような差があったのでしょう。

徳大寺家とは

京都にあった公家。
藤原公季（きんすえ）を祖とする七清華家の一つ。
太政大臣に進む家筋。
明治になって侯爵。

般若郷（はんにゃのごう）の玄関口

このあたり一帯の般若郷（はんにゃのごう）には平安時代末から戦国時代まで、京都の公家・徳大寺家の荘園がありました。室町時代からは地元豪族や武家との抗争があり、増山城は神保氏の一大拠点でした。城下町は江戸時代初期まで賑わったそうです。また中田の御坊山（ごぼうやま）には1000坊に及ぶ真言宗の一大拠点があり、多くの修験者たちが集まっていたとも言われています。

1.需要

荘園で使用する農具、豪族や武家たちには武具、増山城城下町や付近農家の生活品、御坊山をはじめ多数あった寺院には仏具などたくさんの鋳造品が必要でした。

2.川

古い時代、射水郡の金山（かなやま）でも鉄を産出していたようですが、原料である鉱石を運び入れるため、また製品を各地に出荷するためにも川の舟運は重要でした。大きな需要地帯があり、千保川の舟運が活用できるこの地は適していました。

3.土

西部金屋の毘沙門堂周辺では、土地改良が行われる近年まで鋳造に適した赤土が採れたそうです。砂利や小石が多い庄川の扇状地上でありながら、この地は丘の上にあったのです。洪水の被害に遭いにくい時代が長かったことは、樹齢1300年といわれた毘沙門杉がこの地に生い茂っていた理由でもあります。

この場所は、鋳物業発展に必要な要因が重なる場所だったのです。

天正地震（1586）以前には、今の庄川の場所には大きな川は無く、庄東地域と西部金屋（にしぶがなや）は一体でした。この地震以降、それぞれ「東保七ケ」「西保三ケ」と呼ばれるようになり、西保金屋（西部金屋）という地名になりました。

御坊山 現在はゴルフ場となっている御坊山には、真言宗の一大拠点があった。

増山城 1362年以前の築城。室町時代を中心として大きな城下町があった。

毘沙門堂 毘沙門杉が茂っていた跡に建つ毘沙門堂。

西部金屋に残った鋳物師と高岡へ移った鋳物師の差とは？

東寺文書によると室町時代には既にこの地には鋳物師がいたことになっているが、由緒書では天正年間に移ってきたことになっている。日本の鋳物師の歴史を考慮して、推測してみよう。

	在来鋳物師	中央鋳物師
由緒書	持っていない	持っている
いつここへやって来たか	室町時代以前	天正年間（安土桃山時代）
主な氏族	林 家	金森、喜多、般若、藤田、高森家
浄土真宗宗派	西本願寺派（豊臣家の庇護）	東本願寺派（徳川家の庇護）

在来鋳物師 vs 中央鋳物師

中世、全国の鋳物師たちは朝廷の役所である「蔵人所」に属していました。しかし室町時代後期の天文8年（1539）、真継家の久直、康綱親子が鋳物師担当役職であった紀家を乗っ取り、河内鋳物師の由緒を示すという偽文書「仁安の御綸旨」を持たせた鋳物師を諸国へ送り込み、全国組織の再編を試みます。このときに日本中に広がった人々を中央鋳物師と呼びます。徳川幕府に認められた真継家は以降、幕末まで全国の鋳物師を支配しました。

前田利長公は高岡開町に際し、7人の鋳物師を高岡へと呼び寄せます。このとき、西部金屋の在来鋳物師ではなく、天正年間にこの地へと移ってきた中央鋳物師を選びます。当時は「由緒書」を持った鋳物師がもてはやされたのでしょうか。それとも、前田利長公は徳川家への帰順の意味を込めて、徳川家の庇護下にあった東本願寺派の鋳物師たちを選んだのかもしれません。

また、高岡の金屋町で行われている御印祭（ごいんさい）は現在は神事として執り行われていますが、これは国家神道の流れに乗った戦時下に行われるようになったものです。それ以前は仏教の法事として執り行われていました。利長公の命日前日、西部金屋の光證寺で保管されている利長公御絵像を高岡の金屋町へ移し、法要を終えた後は再び御絵像を光證寺へと戻すということを行っていました。

高岡鋳物師の大きな特徴は神様（守護神）を持たないことでした。高岡以外の全国の鋳物師たちはそれぞれに守護神を持ち、修験者たちから様々な制約を受けていました。

しきたりに囚われない自由闊達な生き方を勧める浄土真宗の門徒であったことが、江戸時代後期、高岡銅器を日本一の地位へと登らせた要因となったのでしょう。

厳照寺梵鐘

砺波市福岡・厳照寺にある梵鐘。寛永15年(1638)、西部金屋鋳物師たちが鋳造した。寛永15年当時の厳照寺は権正寺にあったが、元々は現在は庄川の川床となっている戸出の落合（当時は福岡という地名だった）で開かれた由緒ある名刹である。

「梵鐘竜頭木型」（林家蔵）

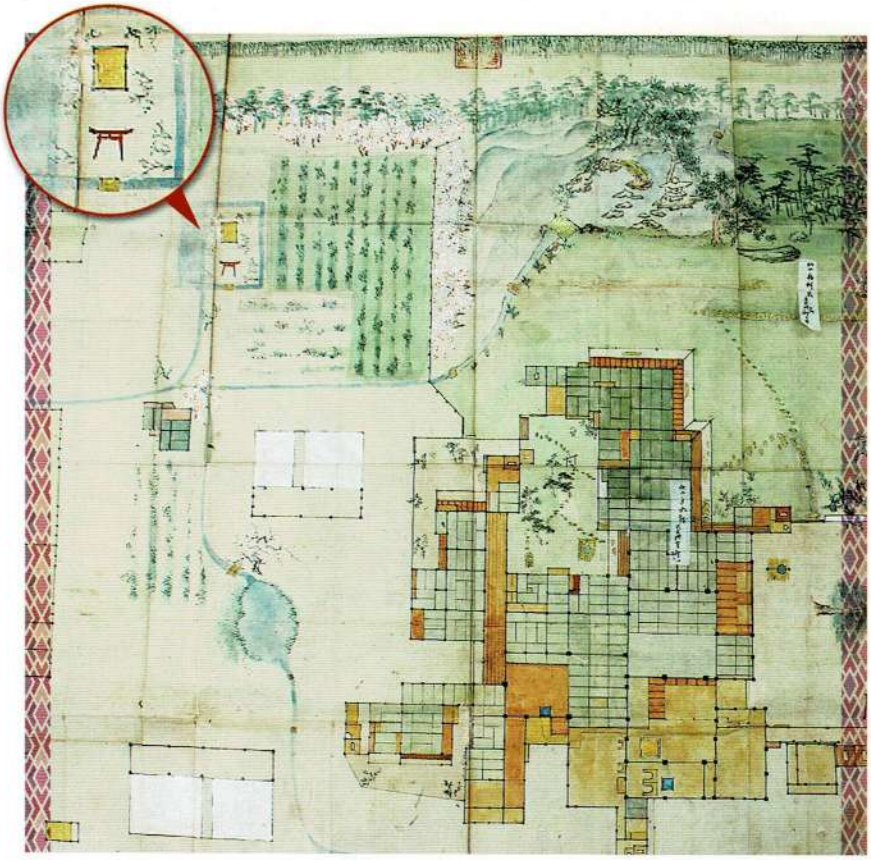
梵鐘の上蓋に使われた竜の形をした環状部を『竜頭』と呼ぶ。

「嘉永5年継目御許状」（林家蔵）

江戸時代、鋳物師を親から子へ引き継ぐには真継家の許可が必要だった。

戸出の謎解き③

「高野槇」と「戸出物産」との関係



戸出町の中心にあった川合家屋敷

富山大学に保管されている川合家屋敷図（上図）は、戸出町史に載っている川合家屋敷図よりも後期のもののようです。左上（南西）には神社があります。

川合家の敷地は明治以降、切り売りされていきました。戸出の四つ角あたりは明治36年に澤田吉三郎氏の所有へ。大正8年からは北陸銀行の前身である中越銀行の戸出支店となり、今も当時の意匠の建物が残っています。

高野槇のあたりは大正12年に吉田仁平氏の所有となった後、昭和17年に戸出物産（株）、昭和18年に戸出町の所有となり、昭和33年以降は中野家の所有となっています。

戸出物産守護神は現在の場所（戸出町1丁目）へ移る以前、寺町（戸出コミュニティセンター。現在の御旅屋門がある裏のあたり）にあったそうです。江戸時代は22棟の加賀藩直営の御蔵があった場所ですが御蔵図には神社は見当たりません。

考えられることは、大正12年～昭和17年の間に戸出物産（株）の創業者である吉田仁平氏が、江戸時代から川合家が代々信奉してきた神様を分霊し、戸出物産（株）の守護神として祀った、ということでしょう。

2016年、高岡市天然記念物にも指定された「戸出御旅屋の高野槇」。ここでは毎年4月29日中野家によってしめやかに高野槇御礼祭が執り行われています。

川合家屋敷内の神社に祀られていた3柱の神様は今もこの高野槇に宿っています。戸出物産が倒産するまでは高野槇御礼祭と同じ4月29日、戸出物産守護神でも祭事が執り行われていました。

戸出町を作った偉人

戸出町の開祖 川合又右衛門

下中条村（現在の砺波市）の豪農だった川合又右衛門（かわいまたえもん）は、舟運に利用できる千保川と、旧北陸道が交わる戸出の地に発展の可能性を見出し、元和3年（1617）11月1日、加賀藩からの許可を得てこの地を開墾し、市を立て、町をつくった。以降、川合家は加賀藩内屈指の十村（とむら）（大庄屋）として栄えた。

戸出町 はじまりの木

大正7年に倒伏した大杉。寛文（1661～）の頃、既に幹周り6.2mの巨木だったそう。原野が広がっていた400年前にも既に目立つ存在で、川合家がここに拠点を構えた理由だった筈である。戸出町はこの一本の大杉のもとから始まった。

高野槇と戸出物産守護神の神様

戸出物産(株)跡に残る戸出物産守護神。通称「物産神社」。経営者が信奉する神社や地元神社の神様を祀ることが多いが、ここではあまり一般的ではない3柱の神様が祀られている。しかも、戸出町3丁目(本町)にある樹齢400年近い高野槇に宿っているという神様と同一だという。この謎に迫ってみよう。

志良比気大明神

北陸ゆかりの神様「気比神」をもじったような名前ですが、「志良比気」=白髭(しらひげ)という意味でしょう。永安寺に飾られている戸出開祖・川合又右衛門の肖像画の白髭を想い起こさせます。

大勢妙力大明神

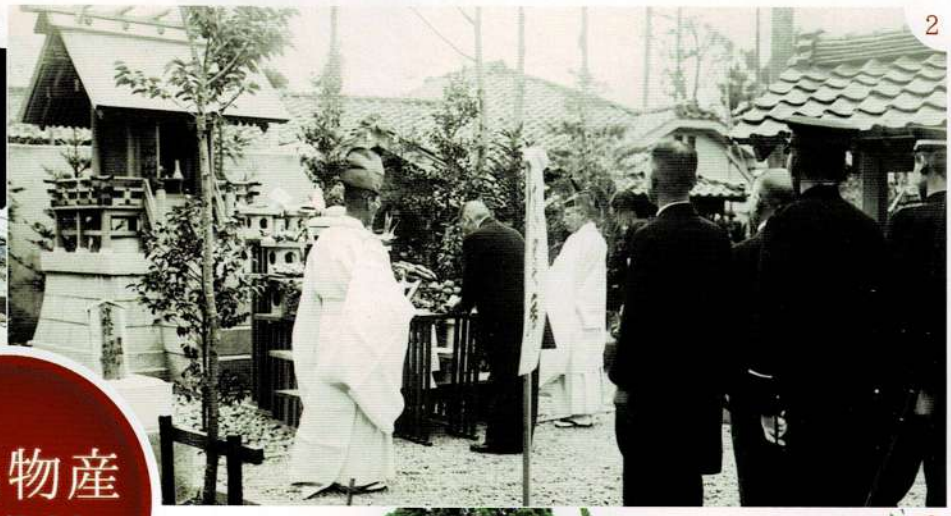
「妙力」とは仏教用語で、妙法の四力(仏力・法力、信力・行力)を指します。「大勢」とは、そのまま「たくさんの人」という意味でしょうか。たくさんの地域住民の力と仏様の力、というところからきたのかもしれません。

明治元年に出された神仏判然令により、仏教由来の神様は認められなかった筈です。この神様が江戸時代からひっそりと祀られ続けてきた神様であることがわかります。

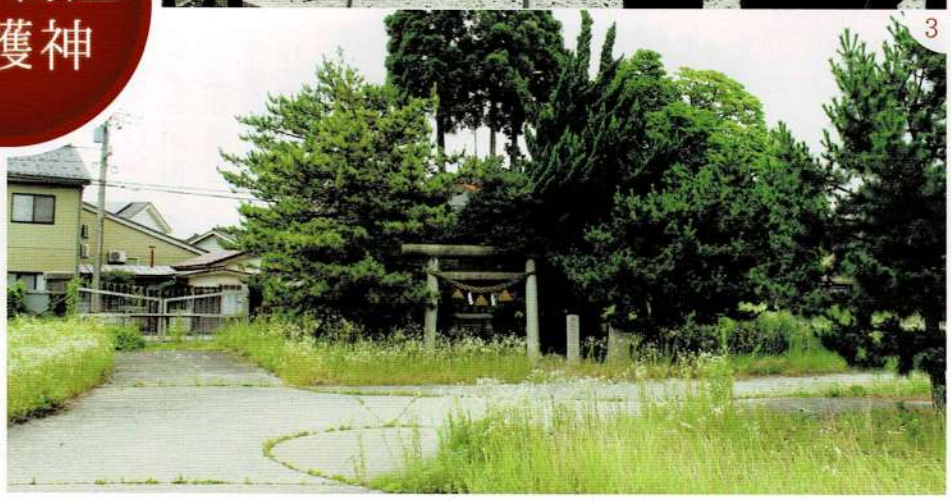
福禄円満大明神

幸福と利益の神「大黒天」の別名「福徳円満の神」をもじったような名前です。また福禄寿は七福神の一人で、「福」=幸福(子宝)、「禄」=封禄(財産)、「寿」=健康で長寿を意味しています。

川合家の歴代当主の中のシャレっ気のある誰かが、開祖・川合又右衛門に感謝し、川合家と、戸出地域住民の皆が力を合わせて豊かになっていくことを祈って建てられた神社のようです。



戸出物産守護神



1.戦時中は全従業員が朝夕、神様へ祈りを捧げていたという。慌てて神社を建てたのは、ここが軍需工場であり、国家神道の時代だったという背景があったのかもしれない。

2.戸出物産守護神(1丁目)。灯籠が完成する前に慌ただしく寺町から分霊(遷宮?)させたらしい。警官の制服は戦前のものなので戸出絹織(株)併合後の昭和19、20年か。

3.現在の様子。戸出開祖・川合又右衛門翁が祀られているのだとすれば、私たち地域住民も何かしなくてはならないだろう。

戸出の謎解き④

戸出物産跡地について

江戸時代の戸出周辺では機織り、布晒しが盛んでした。それがどのような経緯で約1万坪にも及ぶ巨大繊維工場へと発展していったのでしょう。

大正7年～ 戸出織物（株）
昭和9年～ 戸出絹織（株）
昭和19年～
戸出物産（株） 被服工場

大正7年～
戸出物産（株） 大学島工場

Google

西部金屋鋳物師などの財力も投入

江戸時代の四大麻布「八講布（越中布）」の中心地のひとつとしても栄えた戸出町。その歴史を引き継ぎ、近代において繊維産業を発展させたのが、戸出物産（株）、戸出織物（株）の二大企業です。

明治28年（1895）に日清戦争が終結後、中国や朝鮮へ繊維製品が大量に輸出されるようになり、全国各地に繊維企業が誕生。日本の好景気を牽引していきました。

寺町工場蒸気機関設備。煙突横にレンガ造りのボイラー建屋の上棟式。左奥に永安寺の屋根が見える。

現在、戸出物産跡地となっている北側はもとは戸出織物(株)が操業していました。

登記簿によると、戸出織物(株)は絹布や綿織物の製造を行うため、明治35年、寺町の杉本和三郎や、東町の高嶋喜右衛門らによって設立されました。杉本家は大地主の家として知られ、江戸時代に建てられたという町家は現在も戸出コミュニティーセンター前に残っています。

翌36年、西部金屋鋳物師の総代であった林太郎右衛門を取締役に迎え、以降林氏が経営にあたりました。本社工場は、大正7年、一丁目のこの敷地北側の場所へ移転しました。林家は江戸時代(1825)以降、この付近で鋳造業を行っていたのではないでしょうか。

大正11年、皇后宮職に製品を購入していただく等の光栄を拝しますが、昭和2年の金融恐慌の影響を受けて昭和4年に会社は解散。昭和7年に破産宣告を受けました。

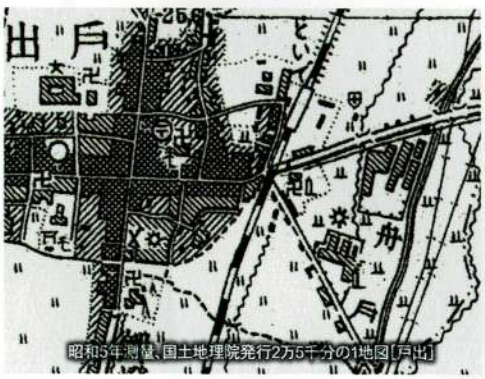
その跡地を買い取って事業を行ったのが、巴町の中條氏、東町の中村氏らによって昭和9年に設立された戸出絹織(株)です。しかし、第二次世界大戦末期の昭和19年、戦局の著しい悪化と軍需物質の不足に対応するための企業整備令によって、戸出絹織(株)は軍需工場となっていた戸出物産(株)へ強制的に整理統合されました。

一方の敷地南側は、大正7年、寺町(現在の戸出コミュニティーセンター)にあった戸出物産(株)が土地を購入し、大学島工場として操業を行ってきました。大正13年などには戸出町の産品として摂政宮殿下(後の昭和天皇)へ製品を献上しています。

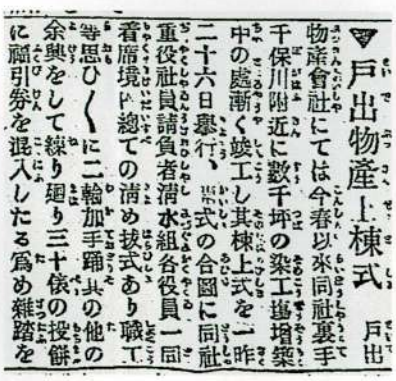
戦後の朝鮮動乱特需のときは大変儲かったそうですが、その後の不況で会社は危機に。昭和32年、寺町からこの場所に本社を移転し、寺町の土地は売却。伊藤忠商事や帝人の支援を受けながら平成26(2014)年まで事業を続けました。

風景、盛土、石垣から判断すると大学島工場西端、西部金屋往来(県道353号)側か。大正7年11月26日に行われた棟上式の"やらやら"の様子のようだ。

上の写真に見られる石垣の一部は戸出公園側から今も見ることができる。



敷地に工場が建った。北側が戸出織物(株)、南側が戸出物産(株)大学島工場。現残の10連ノコギリ屋根工場は未だ建っていない。戸出織物(株)の真ん中の工場は現在も残っているようだ。



戸出物産上棟式　戸出

物産會社にては今春以來同社裏手千保川附近に數千坪の染工場增築中の處漸く竣工し其棟上式を一昨二十六日擧行、祭式の合圖に同社重役社員請負者清水組各役員一同着席境内總ての清め拔式あり職工等思ひ〳〵に二輪加手踊其の他の余興をして練り廻り三十俵の投餅に福引券を混入したる爲め雜踏を

高岡新報(大正7年11月28日)

町の南に"文"マークがあるが学校ではなく、戸出織物(株)の本社。戸出野神社の北にある"文"マークは小学校。

蒸気機関ボイラー建屋棟上式。煙突の根元に丸い釜のようなものが見える。これも寺町工場か。寺町工場は何度か火災に見舞われているとのこと。

煙突は何のために作られた？

産業革命を起こした蒸気機関

機械は電気で動くものでしょうか。現在では当たり前のことかもしれませんが、電気が安定して安く供給されるようになる以前は、蒸気機関が使用されていました。

蒸気機関とは、石炭を燃やしてお湯を沸かし、蒸気の力でエンジンを動かす装置のことです。その力をシャフト（軸）、ベルト、プーリー（滑車）を使って工場内に伝え、全ての機械を動かしていました。

蒸気機関は、第二次世界大戦前に電気モーターへと置き換えられたようですが、シャフト、ベルト、プーリーを使って機械を動かす仕組みは近年まで使われていました。

今も残る蒸気機関施設

蒸気機関設備は戸出町1丁目に今も残っています。

煙突は有害な煙を遠くに散らすため、給水塔は、必要なときには重力のチカラで一気に水が得られるよう、あらかじめ高い場所に貯めておくためのものです。

昭和30年頃、建物の中にあるコルニッシュ型ボイラーからの排気は地下を経由して煙突へ排出されていたそうだ。しかし、大正7年当初は寺町工場の古い写真と同じように、煙突の直下にボイラー建屋があったのではないだろうか。

地下設備へ通じる穴。戸出町1丁目には今も蒸気機関の痕跡が残っている。

地下設備と蒸気機関室とを繋ぐコンクリート

現在の大学島工場の旧蒸気機関室。煙突、給水塔等が今も残っている。
昭和30年頃は、この建物の中にコルニッシュ型ボイラー（横形筒状のボイラー）があり石炭を焼べていた。
内部は3層構造。1階には糊炊場、風呂場があり、2階と3階は乾燥室だった。

現代の私たちから見ると不思議な感じがしますが、わざわざ電力を使って水を上へあげていました。

煙突、給水塔の奥に見える建物は蒸気機関が収められていた機関室です。高いところに滞留しやすい熱を外に逃がすため、天井の高い屋根のさらに上に通気口が設けてあったようです。

戸出物産（株）で使用されていた動力

明治42年発行の富山県写真帖では「蒸気力にて力織機を運転し、付近の村々にも下請けで機を織らせている」と紹介され、寺町工場（現在の戸出コミュニティーセンター）にあった煙突やボイラーの写真が残っています。

大学島工場が新設されたのは大正7年。煙突、給水塔、機関室などの蒸気機関のための設備一式が新設されましたが、蒸気機関自体は寺町工場で使用されていたものが大正7年～9年の間に大学島工場へと移設されたのではないでしょうか。

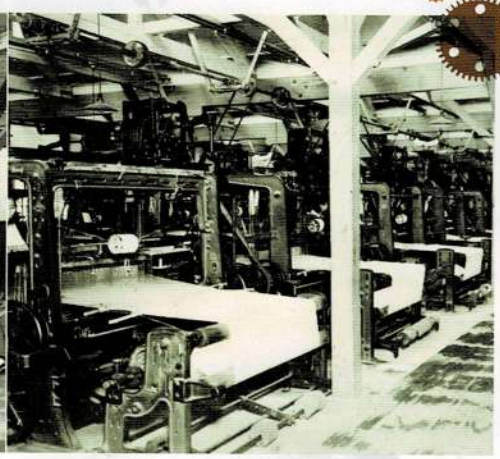
大正9年発行の戸出史料では、動力には「ガスエンジンと電気」を使用、と記載されています。大学島工場の蒸気機関はまだ稼働していなかったのでしょうか。または、一度も稼働することはなかったのでしょうか。

蒸気機関（500馬力、トヨタ産業技術記念館）

このような蒸気機関が戸出にもあった。高岡新報（大正7年4月7日）によれば、大学島工場に導入されるものは100馬力だったとのこと。この1／5程度の大きさだったのだろうか。

前年の火災から復旧した工場の落成式（昭和15年8月31日・寺町）

中央の人が歩く箇所は板張り床。激しく振動する機械の箇所はコンクリート床。天井には動力を伝達するためのシャフトが見える。



織機は天井のシャフト、ベルト、プーリー（滑車）によって動いていたことがわかる。

戸出によっといでの活動

鷹の手の輪くぐりに会場は大歓声

お殿様が戸出にお越しになられた際、お殿様や上級武士には戸出町民が心づくしの御膳料理を、下級武士には団子などを振る舞うだそう。それにちなみ、当日は「鷹狩団子」を販売。即完売！お買い上げありがとうございました。

鷹からの目線

3

5

1 戸出開町400年記念 鷹飛翔

2017 11/4 土

加賀藩の歴代のお殿様が戸出で度々鷹狩りを楽しまれたことにちなみ、全国各地のイベントやテレビ等で活躍の人気鷹匠・石橋美里さんを佐賀県からお招きし、江戸時代の鷹狩りに関するご講演と鷹飛翔ショーを披露いただきました。

この日は戸出地区文化祭をはじめ、戸出山野草同好会さんによる「秋の山野草展」、高岡市商工会青年部さんによる縁日コーナーなども開催され、町全体が「戸出開町400年」を祝賀する雰囲気を感じられる一日でした。

2 たかおか落語祭り in 戸出

2017 7/15 土

戸出の町家で落語を！ということで本町・吉竹亭さんを会場にした「戸出開町400年記念落語」の開催を支援させていただきました。

好評をいただき、翌年2018・6・2(土)にも第2回目開催も支援させていただきました。

主催・たかおか落語ふぁんくらぶ
協力・「戸出によっといで」有志

3 お寺 De ぷちプラネタリウム

2017 7/2 日

報恩寺様のご本堂をお借りして一日限りのプラネタリウムを開催しました。朗読は高岡南高等学校演劇部の皆さんに、収録は放送部の皆さんにご協力いただきました。

感謝・(有)大平技研さま

4 高野槇 あ～とコンテスト

2017 11/4 土

前田利家公を弔うため、川合又右衛門が高野山から持ち帰ったといわれる高野槇をテーマとした写真&写生コンテストを開催しました。

協力・「戸出によっといで」有志

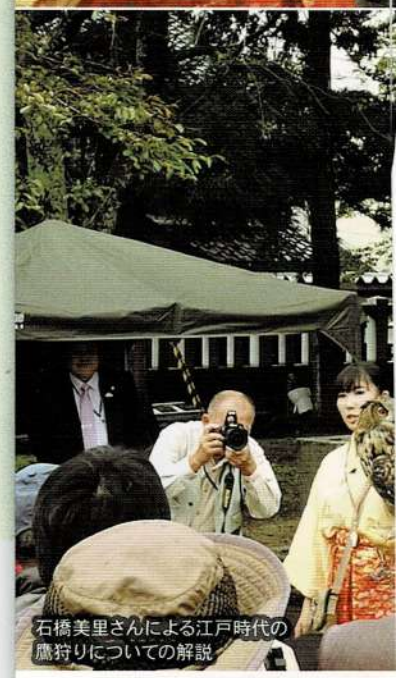
5 戸出駅 開業120周年記念

2017 7/2 日

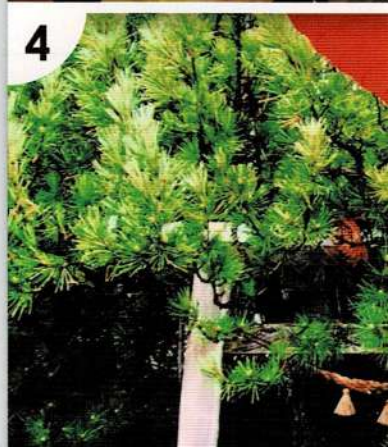
JR城端線と戸出駅の開業120周年を記念し、駅舎内待合室にて鉄道ジオラマ、切符やポスター、関連新聞記事等の資料展示が行われました。

主催・加越線資料保存会
協力・城端線120年記念事業実行委員会、「戸出によっといで」有志

1


石橋美里さんによる江戸時代の鷹狩りについての解説

2


4

編集後記

前回の冊子(平成28年発行)では戸出開町以降のことを中心にまとめたので今回は、それ以前の古代、および前回載せられなかった内容等をまとめました。

本冊子をまとめている中で改めて感じたことは「悔しい」ということです。加賀藩の草創期を支えた川合又右衛門を開町の祖として持ち、「百万石」を支えた中心的な米どころであり、主要特産品「八講布」の生産地であったこともあり、戸出は砺波平野で最大の人口を誇った町でした。

しかし現在、信じられないことに「戸出には何もない」という人がいるのです。地域を築いてきた先人らに大変申し訳ない気持ちでいっぱいです。

戸出よりも歴史が浅く、小さな町だった出町、福野、津沢には近年、町の開祖の像が建てられ、今でも開祖と先人らへの感謝が続けられています。しかし、戸出はどうでしょう。私たちはなぜ今、この地で生活しているのでしょうか。私たちには「感謝」の気持ちが足りていないように感じます。

地域の歴史は、地域の人の心をまとめるツールとして活用できます。また子どもたちにどのような地域を残していくのかを考えるきっかけにもなります。地域に愛着を持つ人が増え、戸出がこれからも豊かな地域として発展していくことを祈念します。

出町・開祖・杉木の次郎兵衛(子供歌舞伎曳山会館)

津沢町・開祖 阿曽三右衛門(阿曽遊園地)

福野町・開祖 阿曽三右衛門(恩光寺境内)

戸出町開祖 川合又右衛門頌徳碑(永安寺境内)

お問い合わせ

戸出地区未来創造異脳種会議
「戸出によっといで」事務局

〒939-1104 富山県高岡市戸出町2-9-1

TEL 0766-63-2507（火曜定休）

FB https://www.facebook.com/yottoide/

HP http://edasen.net/toide/

［発 行］地域の文化遺産継承事業実行委員会

［協 力］戸出地区未来創造異脳種会議「戸出によっといで」

発行日／2018年10月27日

本冊子は文化庁の補助事業「平成30年度文化遺産総合活用推進事業」の一環として、
戸出の近代化遺産、および戸出の町並みの魅力を伝えるために作成されたものです。

文化庁
Agency for Cultural Affairs, Government of Japan